

平成29年度事業報告書

特定非営利活動法人 アニマルクラブ石巻

事業の成果

平成29年度はこれまで以上に啓蒙活動に力を入れることができました。

6月16日～30日、仙台市青葉区の青葉通地下道ギャラリーで、大規模なパネル展を開催しました。地下道は不特定多数の人々が連日行き交う場所～会場で開催したら足を運ぶこともない人達にも、見てもらえるチャンスとなります。通勤通学で通る人も多く、「チラッと見て気になったので、休日にじっくり見て来ました」とメールをくださった方もいました。NHKのニュースでも取り上げられたので、わざわざ足を運んでくれた方々もいたようです。

使えるスペースが広がったので、本物の捕獲器も展示して、ぬいぐるみの猫を置いて、どういった仕組みで野良猫を捕獲できるのかを説明しました。これにより、触ることのできない猫であっても、避妊・去勢手術を施すことが可能であることを知って欲しかったのです。

この企画は『動物との共生を考える弁護士会・東北』との共催でした。弁護士会有志と連携すると、私達が社会に呼び掛けてきたことが、法律に裏付けられた方策として認識されます。動物の遺棄や虐待が犯罪となる動物愛護法を一般に広く知らしめる機会になるし、独居や老夫婦だけでペットと暮らす世帯も増えている中、もしも自分が居なくなった場合、残されたペットをいかにして護るか…遺言書などの対策が、身近なこととして具体性を帯びてきます。

今回はもう一步踏み込んで、遺言書の書き方などの相談会を実施できたら…と考えています。野良猫の不妊手術の方も、個々のケースに応じた捕獲と術後の地域猫の進め方まで、面談できる場を設ければ手術への流れが加速すると思うので、弁護士会有志と共催で相談会の実現を目指します。

啓蒙は広報をうまく活用すると広がります。9月20日からの動物愛護週間には、NHKニュースの特集で、アニマルクラブの不妊予防センターの「避妊・去勢手術で、捨てられる命を生ませない取り組み」が紹介されました。テレビを観て、避妊手術の問い合わせをよこした方もいました。

不妊予防センターは飼い主のいない犬や猫であっても避妊・去勢手術や必要な治療が受けられるように、乗れる相談にはできる限り対応して来ましたが、しかし、助成金を出しても、分割払いにしても、費用を払えない人も多いので、公的助成の下支えがないと先細って、活動が続かなくなっていくと感じています。かねてよりの念願が叶って、10月後半から県が実施している『飼い主がいない猫の不妊手術への助成金』が受けられるようになりました。まだまだ使い勝手の良くない、不十分な制度であるとは感じますが、さらに実質的に役立つ助成金制度になりますように、はたらきかけていきたいと思っています。

異業種間のコラボレーションは弁護士さんだけでなく、4月11日には、人間の病院で終末医療に取り組む臨床セラピストさんと、ペットと飼い主の健康のセルフケアを実践しているトリマーさんを講師に、セミナー&ワークショップも開催しました。

心身共に健康な飼い主であるために、ハーブを活用したり、知らず知らずの癖や負担をかけてしまっている部位を知るマッサージや、ペットと自分の心の声を聴くことの大切さを教えられたセミナーの後は、自分の好みのハーブをブレンドして虫除けスプレーを作って、和気あいあいの癒やしの時間を共有した、これまでとは違ったプレゼンテーションに、今後のさらなる可能性を感じました。

また、東京都や埼玉県などでも震災からの活動のパネル展や、津波で亡くなったボランティアさんが生前描いていたアニマルクラブの犬や猫のイラスト展を実施してきましたが、近年『捨猫』のパネル展をしたいという、貸し出し要請が多くなりました。これは、10年ほど前に、静岡県で活動されている溝淵和人さんの撮った野良猫の写真集に、私が短歌を添えて、静岡新聞社主催の自費出版大賞の奨励賞を貰った本をパネル化したもので、本はすでに絶版になっています。この本を見た人や、アニマルクラブのホームページの『どーするドキュメンタリー』で見た人達から、「本が手に入りませんか?」「是非パネル展を開いて、多くの人に見てもらいたい」という問い合わせが多く来るようになりました。『捨猫』ファンは若い世代の人が多く、種を撒くと、いつか知らない所で芽吹いて伸びていくんだな～とも感じています。

本が伝える感動は形に残るし、人にも伝わるので、アニマルクラブで暮らす犬や猫たち、それぞれのストーリーを『それでもみんな生きていく』という本にして自費出版しました。また、若い世代への啓蒙は特に重要だから、11月1日、市内の中学校から要請を受けて、自分が望む社会に近づくために自分ができることを実践していく生き方の講演を行い、後日たくさんの方の力強い感想を送っていただきました。

